

「地域リハビリテーション出前講座」講座内容例

- ・ 内容例をもとに、詳細については申込校の希望に基づき、講師と協議のうえ内容を調整。
- ・ 対面方式を想定した内容のため、オンライン方式の場合は内容等ご相談ください。

【例】 車椅子利用者が困っていたら??

趣旨	車椅子利用者を例として、障害のある人や高齢者との接し方や環境の在り方の一例を理解します。
内容	体育館や校庭、昇降口等で車椅子の自走体験と押し方の体験をし、児童同士で自分ならどんな時にどのような手助けを、また、どんな声掛けをしてもらえたら良いか考えてもらいます。 さらに、高齢者や車椅子利用者が学校を利用する場合に、どんな工夫があれば利用しやすいのかを、体験を通して感じた事をもとに考えてもらいます
必要物品	車椅子（生徒4名に1台程度）
対応人数	40名以内。それ以上の場合は要相談
時間数	基本1単位時間。大人数の場合や内容により連続した2単位時間以上の時間が必要な場合があるため、申込校の希望をもとに講師と要相談 ＜相談が必要な例＞ ・ 100名で車椅子体験を実施 ・ 車椅子体験とグループワークを実施 等
その他	車椅子については、地元の社会福祉協議会などに問い合わせでご準備ください。 実施場所などについて事前に協議をお願いします。 事前学習として、車椅子利用者が学校を利用する場合に困りそうな段差がどこにあるか、どのようなことに不自由を感じるかを児童に考えてもらう機会を作っていたけると広がりができます。

【例】 リハビリテーションに関わる仕事を知ろう

趣旨	体験を通して、リハビリテーションに関わる仕事（主に、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）を知る。
内容	当日協力が得られる職種により体験の内容を検討します。 一例として… 理学療法士：身体の動かし方（立ち上がりや歩行介助、等） 作業療法士：着替えや食事動作の動作・支援方法、認知症に関すること、等 言語聴覚士：コミュニケーションの取り方や飲み込み、等 この他、上記専門職が働いている場面の動画等を視聴してもらうこともあります。
必要物品	関わる職種や体験内容で異なりますので、事前協議をお願いします。
対応人数	40名以内
時間数	体験内容によっては1時限でも可。応相談
その他	実施場所などについても事前に協議をお願いします。

「地域リハビリテーション出前講座」講座内容例

【例】 小学生がつくる地域の健康

趣旨	児童が高齢者の健康づくりを担える可能性があることをご存知でしょうか？ 本講座では、災害時の避難所支援を一例として、児童が高齢者の健康づくりを担える方法をお伝えします。 大きな災害の後、小学校などに避難されてきた高齢者の健康課題として、日常生活の役割や交流が寸断され、生活が不活発になることで発症する「エコノミークラス症候群」があり、最悪死亡につながってしまいます。 東日本や熊本の震災では、児童や生徒が避難所で高齢者への炊き出しの配膳や避難所の掃除等をおこない、高齢者に喜ばれていたという報道がありました。この時に「お世話」だけではなく、児童や生徒が高齢者と「一緒に何かする」につながると、高齢者の生活が活発になり、エコノミークラス症候群を予防することができます。 そのためには、普段から児童が高齢者への声かけの方法やみんなで一緒にできる簡単な体操を知っていることが必要です。 病院や施設で高齢者のリハビリを担当している理学療法士・作業療法士・言語聴覚士（リハビリテーション専門職）は、高齢者への声かけやエコノミークラス症候群の予防のノウハウを熟知しています。 リハビリテーション専門職と一緒に児童が高齢者の健康づくりを担い、普段から多世代交流ができる地域づくりを展開してみませんか。
内容	下記内容を基本として実施予定 ①リハビリテーション、リハビリテーション専門職の説明 ②高齢者の身体とコミュニケーション能力の特徴と声掛け方法について ③エコノミークラス症候群予防の説明と予防体操の説明 ④高齢者への声掛けの工夫と実践（グループワークとロールプレイ） ⑤まとめ ②③④の詳細については、申込校の要望や講師の専門分野により協議の上相談させていただきます。
必要物品	特になし（実施内容に応じて講師と要相談）
対応人数	40名以内。それ以上の場合は要相談
時間数	基本1単位時間。講師と要相談
その他	事前学習として、高齢者の身体機能や視力・聴覚などの特徴を調べていただく機会を作っていただけると授業の理解が深まります。